



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/30 (月)	+ 200	+ 10,800	+ 11,000	国庫短期証券発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 400 国債補完供給 + 45,400	国債買入 + 14,800	日：日銀金融政策決定会合 (1日目) 欧：景況感指数 (10月) 欧：消費者信頼感指数 (10月)
10/31 (火)	▲ 500	+ 400	▲ 100				日：日銀金融政策決定会合 (2日目) 日：完全失業率 (9月) 日：有効求人倍率 (9月) 米：FOMC (1日目)
11/1 (水)	トン	▲ 28,000	▲ 28,000	国債発行 (2年)			米：FOMC (2日目) 米：ISM製造業景況指数 (10月)
11/2 (木)	▲ 1,000	▲ 9,000	▲ 10,000	税・保険揚げ 地方交付税交付金			欧：ユーロ圏製造業PMI (10月)
11/3 (金)				文化の日			米：雇用統計 (10月)

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆1,100億円増加の548兆1,300億円から始まった。その後は国債買入れオペや共通担保資金供給オペ等により増加傾向となり、週末となる27日には550兆4,000億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、▲0.012%から始まり、その後は一部ビッドサイドが資金調達に慎重な姿勢を見せたことから低下基調を辿り、26日には▲0.019%まで低下したものの、週末となる27日には3日積み要因からビッドサイドの資金調達ニーズが強まり、同加重平均金利は▲0.013%へ上昇した。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に▲0.020%~▲0.010%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、30日・31日に金融政策決定会合が開催され、海外では31日・11月1日にFOMCが開催される。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

## &lt;レポ&gt;

足許GCは週初▲0.10%近辺から始まり、以降は週後半まで▲0.12%~▲0.10%で推移した。3m短国の入札があった週末の取引は▲0.12%が出合いの中心となった。

SC取引は2年438~453回債、5年149~162回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約1兆8,000億円で、週間償還額 (約1兆6,500億円) を上回った。発行市場は、月末日の大量発行と機械や小売業等にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の26兆2,690億円から26日時点で26兆778億円と小幅に減少した。発行レートは概ね0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。26日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でおfferされた。結果は、按分レート0.000% (前回0.000%)、平均落札レート0.023% (前回0.011%) と按分レートが前回比で上昇した。

来週の週間償還額は、約2,300億円となっている。発行市場は、連休により営業日数が少なく、落ち着いたマーケットとなると思われる。発行レートは、期内物を中心に0%近辺での出合いが中心となる一方、金融政策修正の警戒感等から期越え案件についてはレート水準が定まりにくい展開を予想する。

## &lt;TDB&gt;

27日の3M (1191回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1805% (前回債▲0.1824%)、平均落札利回り▲0.1891% (前回債▲0.1928%) となった。

来週は2日に3Mの入札が予定されている。